

Market Flash

発表日: 2019年12月25日(水)

今年もコンピューターも休み

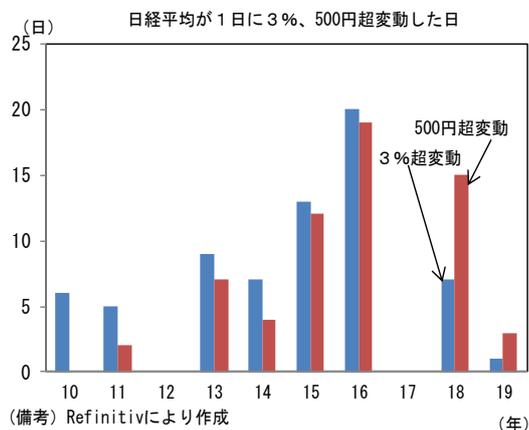
～ちなみに日経平均が急変動する日は減っている～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は24000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは日米金融政策が様子見となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げを実施後、更なる利下げを検討するだろう。

< #穏やかな市場 #変動率 #変動幅 >

- ・昨年と打って変わって今年のクリスマスの金融市場は平穏そのもの。24日のUSD/JPYの値幅は僅か15銭程度、日米欧の主要株価指数も0%台前半の変動と動意薄。米中通商交渉の一部合意、英総選挙など重要イベントを通過したことで材料待ちの状態にある。
- ・他方、しばしば「薄商いの年末年始はHFT（高速売買）が暴走する」という指摘もある。特に2018-19年の年末年始の相場急変は、このHFTが槍玉にあげられた。また、一般的な感覚として「ここ数年はコンピューターに相場が支配されて変動が大きくなった」、「個人投資家が手を出せる相場ではなくなった」という嘆き声もよく聞く。そうした声を頭に思い浮かべ、ここ数日の平穏な市場をみると「なぜ今年もコンピューターが休むのか」と考えてしまう。
- ・ところで、そもそも金融市場の変動は大きくなっているのか。そこで、日経平均が1日に3%以上変動した日を集計する、という最もシンプルな方法で計測してみた。結果はグラフのとおり。2010年以降でみると、趨勢的に増加している訳ではなく、むしろ2017年以降は相場変動が抑制されつつある。2015-16年は中国ショック、日銀マイナス金利導入、英総選挙、米大統領選といったイベントが数多くあり、金融市場の変動は大きくなったが、それ以降は相場変動が小さくなっている。この数値は一般的な感覚と異なる。またコンピューター支配説に必ずしも合致しない。



- ・飽くまで仮説だが、市場変動が大きくなっているという感覚は、日経平均を「幅」で考えることによって生じているのではないか。変動幅でみると日経平均が500円動いた日は2018年が15日、19年が3日。たしかに「率」でみるよりも多い。

【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は新規の材料に乏しいなか、小幅ながら下落（11：00）。日経平均は23800円近傍で推移。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は概ね横ばい。クリスマスシーズンで動意に乏しいなか売り買い交錯。WT I 原油は61.11^{ドル}（+0.59^{ドル}）。
- ・前日のG10通貨はクリスマスシーズンで動意に乏しい展開。USD/JPYは109半ばで一進一退。
- ・前日の米10年金利は1.900%（▲3.0bp）で引け。欧州債市場は休場。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

